
赤黒青 RBB

ヴィーノ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

赤黒青 RBB

【Nコード】

N4113J

【作者名】

ヴィーノ

【あらすじ】

とある軍事大国

ソラリラスには『首刈り』と呼ばれる者がいた・・・
これは『首刈り』とそれに魅入られた人々の物語

『赤黒青』はこちらの方の小説化作品です

<http://park3.wakwak.com/ss-sa-ito/origi/0-originaru.htm>

挿絵などの著作権はこちらの方にあるのであしからず

第1話

> i 3 7 7 1 | 6 3 5 <

シヤラン・・・・・・・・

シヤラン・・・・・・・・

街中を歩いている1人の者がいた
足枷あしかせについている小さな鉄棒がぶつかり合って音を鳴らす
その人物は真つ赤な麻布あさぬのを被って全身を覆っていた

誰かが言った

「首刈りだ・・・・・・・・」

「そついえば今日は・・・・・・・・処刑の日だったな」

シヤラン・・・・・・・・

シヤラン・・・・・・・・

足枷の音が悲しく街中に響き渡る
今日は・・・・・・・・処刑の日

同時刻、同じ街の本屋「ノツマBOOK」に1人の少女が居た

「ハイ、これお釣りね」

店の主であるおばあさんが買い物客の少女にお釣りを手渡した

お釣りを貰った少女は買った本を抱きしめて満面の笑みを浮かべる

「でもねえマリーちゃん、いくら本が大好きだからって……」

おばあさんは少女、マリーの抱えた本を見た

『習俗研究』クロックランゼ著

表紙にそう書かれた本はとても分厚かった

「その本はマリーちゃんには難しいんじゃないかなあ」

確かにそうだった

『習俗研究』と言うタイトルと辞書並みの分厚さ

まだ8歳の少女には速すぎる本だと言える

「この前来たときからずっと欲しかったの、解らない所はちゃんと辞書で調べるもん！」

マリーはおばあさんに笑顔を向けて言った

「じゃあまた来るね！」

カランカラン

走って店を飛び出したマリー

早く帰って本を読みたい気持ちを抑えられなかった

マリーが帰った後、おばあさんは関心していた

「大したもんだわ、大人でも嫌がる分厚い本を……」

そしてとても大事なことを思い出した

「あら、いけない……今日は……夕方過ぎるまで引き止めれば良かったわ」

パタパタと道を走って家に急ぐマリー

しかし走っている最中にいつもと違う異変に気付いた

(あれえ？何か街の人が誰もいない・・・？)
辺りを見回しても人っ子一人いなかった
家の窓は全て締め切られていて、とても静かだった
そして周囲に気を取られていると・

ガッ

「きゃっ」
道の小石に躓つまずいてマリーは派手に倒れてしまった
持っていた本もその衝撃で飛んで行ってしまった
そしてその本は真まつ赤あかな麻布あさぬのを被おった者の前に落ちた
「いたあ・・・」

シヤラン・・・

麻布あさぬのの隙間から覗のぞいている目が落ちた本を見つめる
そこでマリーは本が飛んでいったことに気付いた

「本が・・・」

本のことを案じるマリーの前に黙もって本が差し出される

> i 3 7 7 0 — 6 3 5 <

その本を持っていたのは知らない人だった

こんな真まつ赤あかな人は見たことが無い、マリーはそう思っていた

「あ・・・ありがとう」

そつと本を受け取ったマリー

麻布の中の目と目があった

麻布の者はマリーを一瞥いちめつし

この街に来たときと同じように足枷あしかけの音を響かせながら歩いて行った

シヤラン・・・

シャラン……

「マリー!!!!!!」

家に帰ったマリーに待っていたのは母親からの説教だった

「今日だけはダメって言ったでしょ！何でママの言うことが聞けないの！パパも天国で泣いてるわよ」

「ごめんなさいっ」

マリーは本を盾にしてママの説教を防御する

「もしマリーに何かあったら……ママは……ママは……」

ママはテーブルに肘をついて顔を覆った

いかにも大げさな反応かと思うかもしれないが、ここでは別におかしいことではなかった

「ちよつと心配しすぎだつてば……」

「今日は特別なの！街で変な人に会ったりしてないでしょうね？」

変な人

マリーは真つ赤な人を思い出した

本を拾ってくれた優しい人

「おうちに帰るときほっかむりしてる赤い服の人なら見たけど……」

何気ない一言だった

ガタッ

ママは凄い勢いでイスから立ち上がった

この反応は尋常ではなかった

「く……首刈りを見たの!？」

初めて聞く言葉だった

「くびかり……?」

ママはマリーの傍に来てマリーの肩を強く掴んだ

「見ただけなの！？触ったり目をあわせたりしてないわよね！！」

マリーの目に映ったママは今までとは全然違った

必死の形相で訴えかけてくるママ

「どうなの！？マリー！！」

その勢いに負けてしまった

「・・・ううん、見ただけよ」

私はあの人と目を合わせてなんかいない

マリーは自分の心の中でそう思い込んだ

「そう・・・ああ良かった！」

ママはマリーを強く抱きしめた

そして頭をなでてこういった

「じゃあ今から体をキレイにするから、その本お部屋に置いてきなさい」

「ママ、くびかりって何？」

それはマリーのさりげない質問だった

いつも優しいママがこんなになつた理由を少しでも知りたかった

「人の魂を吸い取って生きている恐ろしい悪魔のことよ」

その時のママの目は「首狩り」を蔑むあはれような目だった

まだ子供のマリーにはその意味がまだよくわからなかった

「念のために明日は教会でお払いしてもらいましょう、マリーが悪霊に取り付かれたら大変だわ！」

ママはあたふたしたようすで部屋をグルグル回っていた

マリーにはあの本を拾ってくれた人が

そんな悪い人には見えなかった

「恐ろしい悪魔……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4113j/>

赤黒青 RBB

2011年10月5日14時44分発行